

日韓議連で 白熱の議論

12月11日（月）、古賀議員も所属する日韓・韓日議員連盟の合同総会が東京で開催されました（ソウルと隔年）。日本側はもちろん韓国からも多くの議員が参加し、両国の未来について真剣な意見交換が展開されました。

日本と韓国は隣国であり、北朝鮮問題をはじめ連携を図る必要がある一方、慰安婦像や竹島など様々な課題を抱えているのも事実です。これらは役人を中心とする政府間の協議では、なかなか解決してきませんでした。

この点、友好的でありながら白熱した議論を行う議員外交には、大きな持ち味があります。とくに、歴史的に半島の窓口だった福岡選出議員として、大気汚染など両国に共通する課題に取り組むことに古賀議員と韓国側議員は合意しました。

—昨年はどうな年でしたか？

予算や税制を扱う通常国会では、本会議や委員会で多くの質問を行うことができました。とくに、税をめぐる問題で、代表質問から最後の反対討論まで一貫して議論をリードできたことは、政治家として大きな自信となりました。「税は国家なり」という言葉があるとおり、政治の基礎を勉強できたからです。これからも、いっそう努力します。

—党が大きく変わりましたね。

まずは当事者の一人として、お詫びを申し上げます。とくに、「分かりやすい政治の実現」を掲げて政治家になった私としては、党が分裂して逆に分かりにくくなったことは、非常に残念です。経緯も、必ずしも透明とは言えません。

総選挙後に選ばれた大塚新代表から党改革を検討する一員に選出されたので、率直な意見を表明しました。マスコミで培った客観的な見方が役に立ったと思います。ただ、改革は実行がすべて。党のためというよりも、むしろ国民のために汗をかいていきます。

—2018年をどんな年にしたいですか？

先行きが見えない、息苦しい国。今の日本にそう感じている人は多いと思います。頑張れば報われる社会、困っている人と連帯して前に進む社会、自分の意見を自由に言える社会。私たちがいつの間にか失ったものを、もう一度取り戻そうではありませんか。そのために、先頭に立って頑張っていく覚悟です。

参議院議員

古賀ゆきひと

新年の抱負を語る



古賀議員は、母校・明治大学の学生に講演を行いました。就職時に福留功男さん（元日テレ）に勇気を出して自分から電話をかけたエピソードを紹介し、「縁に巡り会うには行動を起こすこと」と後輩たちにアドバイスしました。政治活動でもご縁を大切にしています。



建設業で働いている人の組合、全建総連の要望活動に参加しました。建設業は人手不足が続いていますが、その大きな要因はまだまだ改善の見られない労働環境にあります。建設国保の維持・拡充を含め、国のインフラを地道に支えている方々を応援していきます。

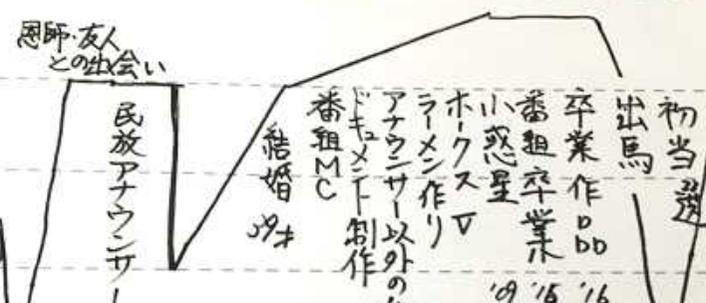


豪雨被害からの 早期復興を迫る

古賀議員は災害対策特別委員会で質問に立ち、九州北部豪雨からの早期復興を政府に迫りました。自治体も頑張っていますが、甚大な被害には対応に限界があります。国がしっかりバックアップするべきでしょう。また、日本は国土の7割が山間地です。今回の災害を教訓にして、防災対応の整備を行っていきます。

発行所：民進党福岡県参議院選挙区第1総支部
〒812-0011 福岡県福岡市博多区博多駅前3-19-14 ビーエスビル博多7F-E
TEL:092-433-0553 FAX:092-433-0552

古賀ゆきひとの幸せ度数表



ネットでの政治トーク番組「みわちゃんねる」に古賀議員が出演し、生い立ちから前職エピソード、今後の政治方針などを語りました。インタビューをするのは得意ですが、受ける立場は新鮮に感じたそうです。

(<http://miwachannel.com/>で視聴可能)

スポーツ議連・オリンピックパラリンピック議連合同総会に参加。間近に迫った平昌五輪や2年半後の東京五輪の準備状況をヒアリングしました。前回の東京五輪を契機に日本は大きく国際化しましたが、今回もそうなるようしっかりと態勢を整備していくことが必要です。